第7回
情報セキュリティマネージャー
ISACAカンファレンス in Tokyo

ISACA
Trust in, and value from, information systems
Tokyo Chapter

「デジタル化，全てがつながる世界」における「セキュリティの再定義」

あらゆるデバイスがネットワークに接続される今日。攻撃主体の高度化・組織化も進み、環境が急激に変化したことで、セキュリティリスクの再点検・再定義の時期に差し掛かっています。組織においては、ダメージコントロールを含めたリスクマネジメントが必須である認識が広まりつつあり、セキュリティマネージャー役割もその重要性が増しています。

今年も情報セキュリティ、特にサイバーセキュリティやIoTの分野において最前線で活躍されている有識者をお招きし、知識の獲得、スキルアップ、情報交換を目的に、ISACA東京支部がカンファレンスを開催いたします。

カンファレンス終了後に、講演者および参加者の交流の場として、懇親会（※別途申し込みが必要となります）を予定しております。 皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2019年2月16日（土）

14:00-18:00 （13:30 開場）

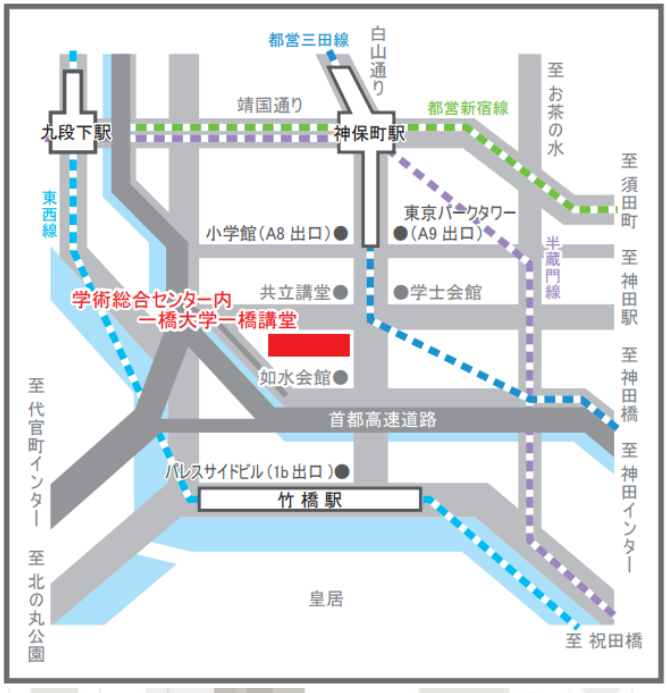
懇親会 18:30-

場所

一橋大学　一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター 2階

東京メトロ半蔵門線 都営三田線 都営新宿線
神保町駅（A8・A9出口）徒歩4分
東京メトロ東西線
竹橋駅（1b出口）徒歩4分



主催：ISACA東京支部
後援：特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会（JASA）
日本シーサート協議会（NCA）
(ISC)2 Japan Chapter

●プログラム

挨拶	14:00～ 14:10	**開会の挨拶　主催者より** ISACA 東京支部 会長　田中 秀幸
講演 1	14:10～ 15:00 (50分)	**セキュリティをまもる、人と組織の軌跡** 東京電力ホールディングス株式会社 セキュリティ統括室長　谷口 浩 様
講演 2	15:00～ 15:50 (50分)	**自動車のIoT、自動運転、MaaS化に伴うセキュリティの課題と今後の方向性** インテル株式会社 事業開発・政策推進ダイレクター / 名古屋大学客員准教授 野辺 継男 様
紹介	16:10～ 16:20 (10分)	**CISM資格の紹介** ISACA東京支部 CISM委員会 委員長　木村 晴雄
講演 3	16:20～ 17:10 (50分)	**サイバーセキュリティ事始め** **～サイバーセキュリティとどう向き合うか？非技術者セキュリティ担当の一考察～** カーディフ生命保険株式会社 シニアセキュリティオフィサー　森岡 聡一郎 様
講演 4	17:10～ 18:00 (50分)	**実インシデント対応による高等教育機関のサイバーセキュリティ管理体制の強化** 国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系教授　高倉 弘喜 様

参加証明： カンファレンス終了後のアンケートにお答えいただいた方に受講証明書を発行いたします。

50分 X 4セッション= 200分のCPEに相当します。（ISACA継続教育 4CPE相当）

参加申込 **https://cismconf2019.peatix.com/**

参加費用 **一般 3,000円 / ISACA会員・後援団体 2,000円**

- メールでのお申込みはお受けできません。
- Peatixの操作方法は上記申込みサイトのヘルプセンターを参照してください。

懇親会 **3,500円**

- カンファレンス終了後に講師の方を囲んで、ささやかな懇親会を予定しております。
- 懇親会参加は別途有償となりますが、どなたでもご参加いただけます。上記Peatixよりお申込みください。
- 懇親会会場は、一橋講堂と同じフロアの中会議場です。入場時にPeatixチケットを確認させていただきます。

お申し込み期限 **2019年2月15日（金）17:00**

（但し、会場収容可能人数に達した場合、事前に締め切ります。）

資料

- 会場では講演資料の配布を行いません。配布可能な講演資料は2018年2月上旬頃を目途に、ISACA東京支部ホームページ上で公開いたします。必要に応じて事前に印刷・ダウンロード等をしてください。

http://www.isaca.gr.jp/cism/cismconf2019.html

お知らせ

- セミナー講師、講演タイトル、内容等は、都合により変更させていただく場合がございます、ご了承ください。
- お申込みに際してお伺いしたお名前・メールアドレス等の個人情報は、本カンファレンスの中止や延期の連絡、次回の開催案内に使用させていただくことがあります。
- お申込み完了時の画面を印刷して、当日受付に提出してください。
- カンファレンス終了後のアンケートにお答えいただいた方に、CPE証明書を発行いたします。

お問い合わせ **cism-conf@isaca.gr.jp**（ISACA東京支部CISMカンファレンス担当）

講演1　14:10-15:00

セキュリティをまもる、人と組織の軌跡

概要

現代生活になくてはならない電力を安定的に供給するため、東京電力グループはさまざまな努力を続けています。サイバーセキュリティに掛る取り組みも例外ではありません。セキュリティ環境がますます混迷していくなか、どのようにセキュリティを守る組織を作り、その中で働くプロフェッショナルを育成しているのかについて、その考え方や取り組みの一端をご紹介します。

講師

東京電力ホールディングス株式会社
セキュリティ統括室長
谷口 浩 様

略歴
2014年12月東京電力株式会社（当時）入社、2017年7月東京電力ホールディングス株式会社セキュリティ統括センター（当時）所長、2018年4月同セキュリティ統括室長。2005年以来ISACA東京支部会員。CISA, CISSP, CRISC

講演2　15:00-15:50

自動車のIoT、自動運転、MaaS化に伴うセキュリティの課題と今後の方向性

概要

自動運転では多数のクルマに装着されたカメラやレーダー、ライダーからのセンサーデータを分析して得られる環境情報と、ECUデータを分析し得られる走行情報に基づき、三次元地図と自動走行アルゴリズムを生成し、またそれらを走行時に利用する。その際、データはアップロードもダウンロードも概ね携帯網通信を介して行われ、多数のクルマと共有され、自動運転車は皆が走れば走るほど運転が巧くなる。更に、シェアされる自動運転車は移動サービスを提供しながら各種情報を生成し、鉄道、バス、自転車等と相互に情報共有しMaaSを実現する。これらにはあらゆるポイントで堅牢なセキュリティを必要とする。こうした全体像と課題と解決策をお話しします。

講師

インテル株式会社 事業開発・政策推進ダイレクター
名古屋大学客員准教授
野辺 継男 様

略歴
1983年3月、早稲田大学理工学部応用物理学科卒、1990年6月、Harvard大学PIRP Fellow。1983年からNECにて欧米で国際標準PC事業立ち上げ、その後国内のPC98を国際標準PCに切換えた後、PC関連の各種技術開発と事業開拓 (VOD、テレビ会議システム、インターネット応用等)。2001年からソフトバンクにてオンラインゲーム及びインターネット事業立ち上げ。2004年から日産にてクルマのIoT化統括。2012年からインテルにて自動運転の事業開発と政策推進。2014年以降名古屋大学客員准教授兼務。

講演3　16:20-17:10

サイバーセキュリティ事始め
～サイバーセキュリティとどう向き合うか？ 非技術者セキュリティ担当の一考察～

概要

サイバーセキュリティ対策について、「何から手を付けてよいか？」、「リソースが足りない」、「どこまでやればよいの？」、「攻撃を受けた際の対策は？」等々、事業会社のサイバーセキュリティ担当者が頭を悩ます「あるある」について、自身のこれまでの「一人」セキュリティオ担当者や、金融ISACの活動を通じて得た経験を中心に、「非技術者」の観点から皆様と共有できればと思います。

講師

カーディフ生命保険株式会社
シニアセキュリティオフィサー
森岡 聡一郎 様

略歴
1991年朝日生命保険相互会社入社。営業管理、現地での営業担当を5年経験後情報システム部門に異動し、導入直後の「オープン系システム」に関する基盤開発やアプリケーション開発担当として5年間過ごす。
2002年アクサ生命株式会社に移り、事務企画、ITBRM、マーケティング部門を経て、2008年よりアクサフィナンシャル生命保険においてシステム開発部門のリーダーとなる。
2010年カーディフ生命保険会社（当時、現カーディフ生命保険株式会社）に移り、ITコーディネータ、システム運用管理リーダーを経て、2012年よりセキュリティオフィサーとして、サイバー、情報セキュリティ対策やBCP策定等に従事。
金融ISAC　AKC WG　座長、ISACA東京支部基準委員会メンバー
CISM、CISA、CISSP

講演4　17:10-18:00

実インシデント対応による高等教育機関の
サイバーセキュリティ管理体制の強化

概要

サイバー攻撃対策の研究開発は急速に進展しており、脆弱性の自動検出や攻撃の自動解析により、副作用は起こりうるが被害の未然防止や拡大抑止を可能とする暫定対策を講じるようになると考えられる。一方、攻撃者の観点では、脆弱性検出から攻撃プログラムの生成までを自動化できるようになる。これは、最も適したタイミングで攻撃を開始できる攻撃者が有利である状況が続き、防御側には攻撃検知時の迅速な判断により適切な暫定対策の適用が求められることを意味する。国立情報学研究所では、このような未来を想定し、CISOを補佐する参謀役の育成を実インシデントへの対応を通じて行なっている。

講師

国立情報学研究所
アーキテクチャ科学研究系教授
高倉 弘喜 様

略歴
平成2年九州大学工学部卒、平成4年九州大学大学院工学研究科修士課程修了、平成7年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。奈良先端科学技術大学院大学助手、京都大学講師・准教授、名古屋大学教授などを経て、平成25年国立情報学研究所教授。
内閣官房情報セキュリティーセンター、総務省、経済産業省、文部科学省、情報処理推進機構、JPCERT/CC、京都府警、愛知県警、JNSAなどにおいてサイバーセキュリティに関する委員会に参加。
未知のサイバー攻撃の検知・追跡・対抗策構築に関する研究に従事し、IEEE COMPSACのサイバーセキュリティに関するシンポジウム委員長など国際会議の運営にも協力。